




第5回 公共施設のあり方検討 市民ワーキング 【最終回】

2017.11.26

長久手市総務部財政課

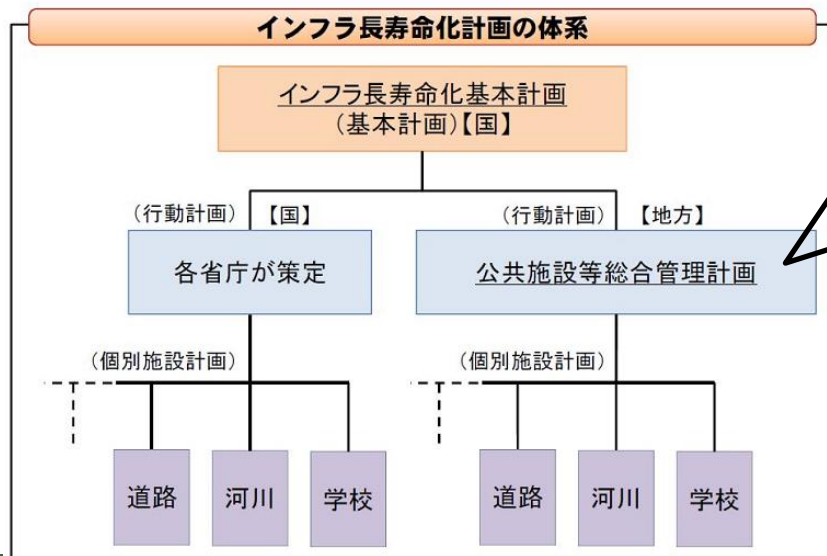


まちづくり、
まずは笑顔で
こんにちは

●市民が使う公共施設の今後のことを、行政だけでなく、市民と一緒に考え、その結果を参考にし、「公共施設等総合管理計画」を更新すること。

公共施設等総合管理計画

- 公共施設等の将来更新需要等に備え、長期的な視点でかつ計画的に財源確保、負担平準化を図る必要性があり、適正な管理を推進するため定める計画



(全国的に見ると)
国のインフラ長寿命化基本計画に基づく
地方自治体の行動計画
(長久手市として)
市内のあらゆる個別の施設の計画が作成
される上での基礎となる計画

- 策定年月： 平成29年3月
- 計画期間： **34年間** (2017~2050)
- 対象施設： 市が所有する全ての公共施設等
 - ・市役所庁舎等を含む公共施設 (ハコモノ)
 - ・道路、橋、公園等を含むインフラ施設
- 公共施設の保有量： **約151,998㎡**
(うち**49.1%**が学校施設)
- ライフサイクルコスト： 上記計画期間中の合計
約985.3億円
(**29億円/年**)

※平成29年度中更新予定

本市の公共施設等の総合的かつ計画的な管理に関する基本方針

基本方針1 誰もが安全で安心して利用できる公共施設等を目指します。

耐震化や、老朽化対応、バリアフリー化の推進等により、誰もが安全で安心して利用できる公共施設等を目指します。

基本方針2 公共施設の更新時に機能の複合化を前提に検討するとともに、公民連携の促進や、広域連携などにより、トータルコストを縮減します。

長期間のライフサイクルコストを考慮した施設の維持管理を行うとともに、公共施設の更新時に機能の必要性を勘案のうえ、複合化を前提に検討するほか、公民連携等による施設管理、広域連携による施設運用を行うなど、新たな手法を検討することにより、トータルコストの縮減を目指します。

基本方針3 将来計画に基づき、財政負担を平準化し、計画的に基金を積み立てます。

公共施設等の将来にわたる更新等に必要とされる金額を推計し、長寿命化等により財政負担を平準化するとともに、財源不足が生じないように、基金の積立てや起債の発行などを計画的に行います。

【人口推計】

今　　：　人口増加中

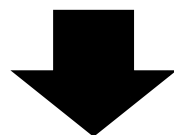
2035年頃　：　65,000人（ピーク）

以降緩やかに減少

【人口構造の推移】

今　　：　「若いまち」

今後　：　いずれは高齢化社会



税収減の要素

※公共施設はいったん建てれば、ランニングコストがかかり続ける。

※一方で、更新、維持に必要な財源（税収）はいずれ減少する。



★公共施設の観点から見た長久手市の特徴

- 「旧住民は、繋がり、伝統も多く残るまちとも言えるが、新住民が多く、繋がりが総じて希薄。」
「若者が多く活気があり、学童、放課後児童クラブ、児童館など子育て施設の充実を図っている。」
「通学路など歩道が狭く、商業施設ができてから交通渋滞も発生しており、道路の整備も課題。」
「文化の家、福祉の家、図書館など、立派な公共施設がある。」
- 「公園もたくさんあって、緑が多いまち。」
「商業施設もたくさんあり、20分以内の移動で生活ができる、住みやすいまち。」
「地域でのまとまりが薄く、集まろうにも参加者が少ない。」
「車社会で、歩いて移動するには限界がある。」
「近年急速に商業施設など乱開発が進んでいてなんだか心配だ。」
- 「名古屋市に近くて便利。」
「モリコロパーク、文化の家、博物館、古戦場、ござらっせなど遊べる場所がたくさんある。」
「子供の声が聞こえ、未来を感じるまち」
「市役所の人フレンドリー。」
「大きすぎる文化の家が負担にならないか心配！」
「集会所が使いづらい！」

★公共施設の現場を見て気づいたことなど

- ★長年住んでいるが初めて訪れる施設もあった。昔から知っている施設もずいぶん古くなったという印象も。
- ★小規模施設は利用率が低く、規模が大きい施設は一定の利用率があるようだ。
- ★施設の整備に当たっては財源の問題も考えなくてはならないだろうから、公共でなく民間にできるものは民間に任せたり、ある程度集約化を図っていくことも重要だ。
- ★集会所は地域の担当者が鍵の管理をしているようなのでいつでも入れる訳ではなく、使い勝手に課題がある。
- ★今日回った中でもたくさんの集会施設があった。集会所はいつもは空いていないし大人数で集まるには狭く、駐車場もあまりない。老人憩の家はシニアの方しか利用できない。共生ステーションやまちづくりセンターのような施設のほうが、利便性が高そう。
- ★施設は点在しているよりも、集中していたほうが管理の面でも効率的。
- ★できるだけ新しい施設を作るのではなくリノベーションを。その際は、環境負荷に配慮し、CO2削減を。
- ★アクセスの点を考えれば、公共施設は一定の駐車場を確保するか、または、リニモなどの駅周辺に設置されるのが望ましい。
- ★これからは、民間にはできない真に公共が担うべき機能を考える必要がある。
- ★人口減少を見据え、施設を余計に作りすぎず、今あるものを有効活用すべき。
- ★全ての公共施設の空き状況を一括して検索、予約などできるような仕組みがあれば、利用率も上がるかも。

第3回市民ワーキング 検討結果

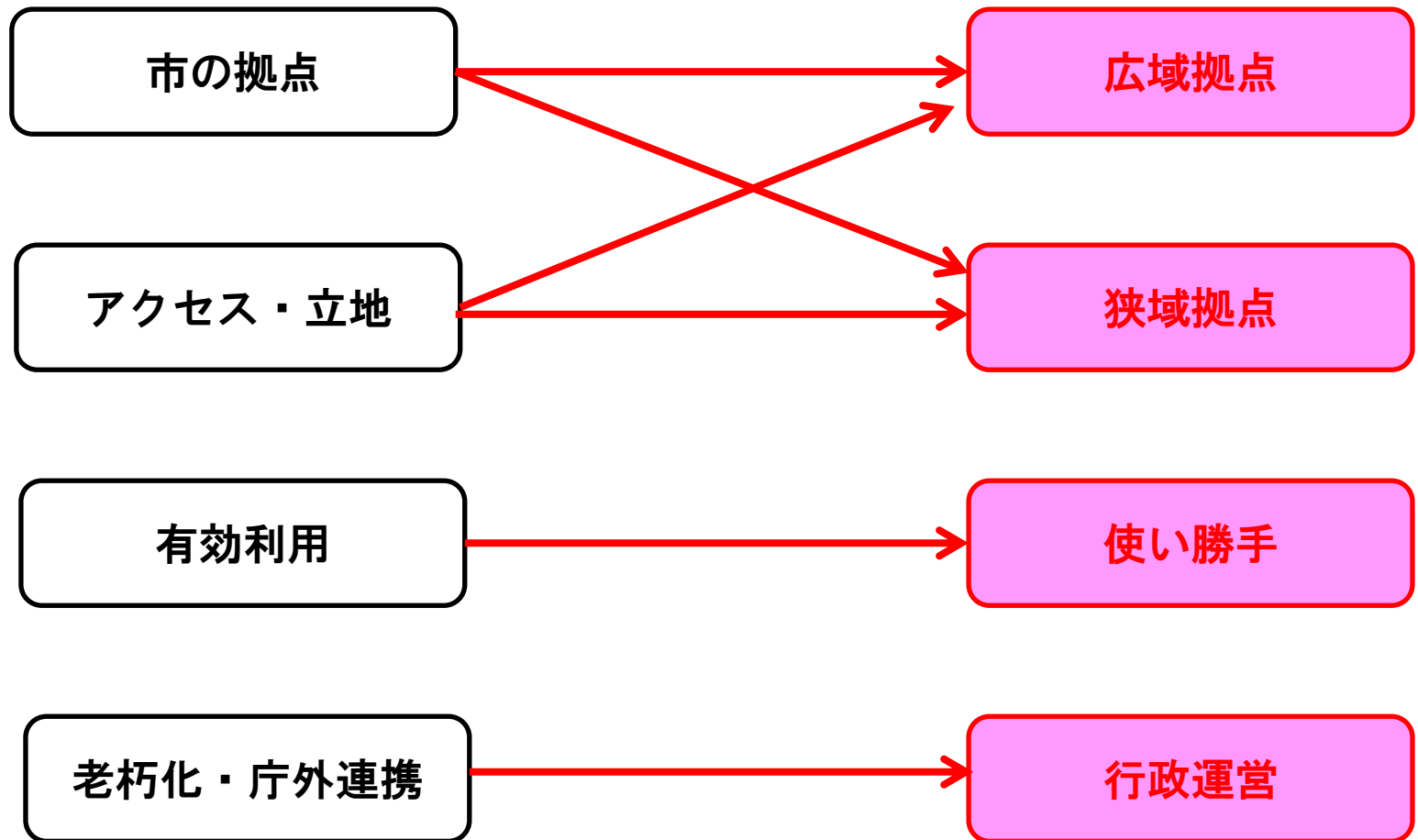
グループ	広域的な施設		狭域的な施設	
	本来求められるもの	現状の課題	本来求められるもの	現状の課題
A	市役所		街区公園	
	戸籍、税、健康保険などの窓口業務	今後の少子高齢化人口減少減収社会を克服した自治体の将来像	いつでも気軽に使える	騒音
	建物が頑丈であること	市役所業務が拡大化している	体を動かす(含スポーツ)(含高齢者)	雑草
	住民の安心安全	縦割り行政で、横の連携が弱い	美観(水場、芝生、花、緑)	駐車場が足りない
	業務を遂行する人材	各種サービスのワンストップ化(利便性向上)	地域交流・つながり	高齢者にとっては、家からすぐ近くにあるとよい
	自治体行政への市民参加の促進	市民と職員、市民同士の話し合いの場所	安全に使える	あまり賑わっていない気がする
	雇用の創出	地区(小学校区)ごとに特色があり、課題がある	マルチエなんかもできるらしい	全面芝生にしてもいいかも
	自治体行政の市民への移行	市役所支所の設置→小学校区単位での問題解決、住民参加・職員雇用の増加	多様性	
B	図書館		老人憩の家・集会所	
	本の貸し借り	市の図書館をほとんど利用したことがない	歩いて行ける	鍵がかかっている、使い勝手が悪い
	文化的にリードする存在	飲食スペースの充実	老若男女誰でも使える	管理や許可の主体が分かりづらい
	歴史的文献の保存	駐車場が足りない	気軽にいつでも使える	バリアフリーが不十分
	勉強する場所	移動図書館があってもいい	多様性	駐車場が足りない
	アクセスのよさ	本が貸してもいい	活気のある場所	一部のしか利用していない(憩の家は、高齢者専用)
	くつろげる空間	民間に運営をまかしてもいいかも	市役所の窓口機能があってもいい	老人憩の家や集会所を統合して、使いやすくしてもよいのではないかと
C	杵ヶ池体育館		集会所	
	市民の健康増進・体力向上	今後数十年維持可能性	交流の場	維持管理の負担(草刈りなど)
	交流の場	公園全体を利用したイベントの充実(マルチエなど)	比較的家の近くにある	一部のしか利用していない(若い人の利用が少ない)
	スポーツの振興	駐車場が足りない	会議する場所	使い方が分からない
	気軽に使える	休憩施設やプールがない	勉強する場所	何のために使う施設が分かりづらい
	安価な利用料	運動器具の更新	遊戯訓練の場所	計画的な修理、保全の必要性
	休憩施設の充実	古い	子育て中のお母さんでも使える場所	もっと気軽に使えるとよい(憩の管理等)
	遊戯所としての機能	規模が小さい	子供だけでも使える場所	地域格差(施設がないところもある)
		予約がとりづらい	ワークショップ会場としても使える場所	他の施設で代用できないか
	県立芸術大学		→ 第3回意見を要素を抽出し、第4回では4テーマごとに検討	
芸術振興	施設の老朽化			
人材育成	市民への開放			
地域に開かれた学校(学校祭、市民講座等)	市民にとって何をやっているか分かりづらい			
D	文化の家		野球場・スポーツの杜	
	市民が文化活動を行う場(練習・発表)	利用料金が高いかも	スポーツをする場	予約がいっぱいでなかなか利用できない
	市民が文化芸術を楽しむ場(鑑賞)	維持コストが高そう	スポーツを見る場	空いているとき予約なしでも利用できないか
	市の文化行政発信の場	市民全体というより、一部(プロ)の利用が多い	市民が気軽に体を動かす場	立地的に交通の便が悪い
	市の顔(式典会場などにも使用できる)	予約がいっぱいでなかなか利用できない	交流の場	設備の充実
	遊戯所としての機能	ホールの構造が高齢者向きでない(バリアフリーに課題)	いつでも使える場所	汎用性がない(野球場に限定)
	他の自治体よりホールの規模が小さい(1000人以上収容可能なところも)	イベント会場としてもよい	近隣市町との相互利用を考えたもよいのでは	

第4回市民ワーキング 検討結果

★みなさんで、市民が考える公共施設の基本方針案を作成してみました。

基本方針1	【広域・狭域で考える市の拠点】
・市全体の拠点から地域の拠点へ ー市民中心の将来の拠点づくりー	
・現在の市役所の広域拠点化による長久手の中心部形成	
基本方針2	【アクセス・立地】
・近場の施設の共用	
・広域施設は公共交通、狭域施設は徒歩圏内	
基本方針3	【施設の有効利用（利便性・効率性・多様性）】
・知って・見て・使う	
・その施設は、その使い方で合ってる？	
・小規模多機能な集会所にする	
基本方針4	【老朽化・庁外連携】
・必要な施設は建て替え、他で使える施設は一緒に使おう	
・杵ヶ池体育館の杵ヶ池公園と一体化した整備	
・既存施設をテナント化、行政機能を民間施設へ	

★最終回に向けて4つのテーマを再編し、議論を集約
(第4回ワーキング) (今回)



広域で考える市の拠点

- ・ 複合化、交通、自治体連携 ...

狭域で考える市の拠点

- ・ 機能と立地の整理、施設間連携、気軽に利用できる ...

市民の使い勝手の向上

- ・ 施設管理の一元化、利用しやすさ ...

施設に対する行政運営

- ・ 施設の整備方針、民間施設の活用、大学の活用 ...

**みなさんの手で、「公共施設に対する提言」
をまとめよう！**